

關東古戰錄

六







關東古戦録卷之六

目録



① 長尾為明たけおの ためあきら苦平くへい井惣せいそう方かた車くるま

② 足利あしかが右みぎ郎らう入いり吾妻ごまに山やま車くるま

③ 鹿島かしま忠ただ次つぐ郎らう旅たび途と武ぶ勇ゆう

附 百ひゃく九く十じゅう九く水みづ上のうへ忠ただ藏ざう車くるま



④ 足利太昂東國偏歴

附所々將勇士事

關東古戦録卷之六

長尾為明平井勢を苦む事

斯て足利太昂、城戸持廣を以て例を以て、比叅、為明、東  
 往して、大業を起すの基を、淡も、竹沢、泉崎、霧浪、原根、入部  
 て、勤仕、たす、り、る、處、に、次郎太昂が、勤よ、り、り、て、勢、源、熊、老  
 郎、の、者、に、れ、ば、と、も、に、臣、下、よ、り、か、て、漸、く、智、勇、の、士、集、會、せ  
 且、或、時、太、良、城、戸、行、沢、根、中、を、百、具、し、て、例、の、如、く、搦、を、行、り、  
 て、池、騁、を、試、之、け、る、事、也、官、領、憲、政、の、寇、臣、菅、大、膳、巡、見、と、し  
 て、勇、々、と、出、立、て、通、行、せ、ら、る、事、也、村、野、の、武、人、づ、ら、出、立、て、皆  
 平、伏、し、て、諂、を、容、り、ら、る、事、也、大、膳、こ、ろ、へ、馬、を、と、り、て、横、行、せ、  
 太、良、折、忍、れ、い、く、事、の、名、居、よ、り、身、を、以、て、主、行、搦、を、伺、け、る



二管馬を前よきて、大膳急度戸を以て、何の形よ  
 して、斯の如く馬足を以て、百姓もが口は  
 踏農人常よ馬を造て、性身が、と云とも、と答あくるは  
 何程も不思議の次申うると、述されば、大膳伏の古令  
 して、ま后を探し、刀を以て、と云されば、太郎主従あれを聞て、大  
 二發て、樹間を後へゆけて、逃去り、大膳が人教、左のた  
 右を尋探て、立陣、性こと半点もなし、唯士三人、れ急  
 たるふ、山道、行を、見、このこと申、り、急馬常の如く、  
 歩り、一ハ大、二煙、三、交、り、右の二人、藏人よて、我を  
 認と、刀、を、我神明の加護、周て、馬、その機を、ら、  
 ならず、と、俄、下馬して、伏、お、り、る、人、の、取、人、申、る  
 ハ、言、然、る、事、も、有、三、り、ん、ら、只、今、お、る、急、ぎ、也、き、ハ

控化太郎と申、浪人なり、此者、柔、和、勇、威、ありて、他人、悉く、是  
 を慕ふ、不測の奇、現、ある者よて、折く、れ、が、例、を、示、お、し、る  
 者、馬、足を、以、て、あり、と、君、の、言、進、り、ハ、今、く、大、所、社  
 中、に、く、き、居、よ、ら、る、と、何、心、なく、述、され、ば、我、傍、の  
 大膳、大、は、色、を、換、し、吾、友、友、友、の、大、は、なり、彼、ハ、新、三、農  
 民、なり、何、を、我、馬、足を、以、て、を、得、ん、油、等、怒、よ、彼、が、不、測  
 を、以、て、却、て、吾、を、以、る、と、言、ち、ち、妙、義、の、禁、の、件、を、打、教  
 て、恐、る、者、と、も、の、速、を、は、り、し、ゆ、次、べ、と、心、の、外、怒、ら、れ  
 ば、居、屋、百姓、と、も、一、回、よ、色、を、揚、て、我、く、なん、ず、大、所、を、奪、  
 て、忍、を、以、り、ん、彼、を、以、て、一、毫、の、惡、事、なり、お、れ、を、刑、罰、お  
 ら、ん、と、割、の、害、あり、ん、と、申、れ、ば、管、い、く、憤、り、汝、等  
 彼、控、化、太郎、と、や、ら、ん、は、折、換、して、我、首、を、切、り、又、定、一、撥、の



志ありと云ふなり。友成へ訴て不目よ政殺して、愚民からの迷妄をばはまさんと。おぼよ自て取急て平井へ立寄りこれハ百姓とも大に愁て急を太島よ告多きハ老郎少も恐れバ一討て来らバ一擧して逃らふハ後何方へありと立去べと。端然として居りければ城戸下め所決来海心ならず。中義黨を拒りる。暫時しうして勇士とも集りければ城戸持廣右の次舟を語てをのく。吳尼をきくよ。待交て戦んと云あり。一先下舟へ立戒て長尾ととも謀さんと云。區くふと決りあり。然る折く長尾為明席巻を伴て入来れば太島大に悦喜ありて大擧が憤。徳王の吳尼を相成ありければ長尾おれをすて。是幸あり。此度愚の武威を示し近邑の徳侯の目をそそらべし。

然も一時功をなしたるも。後來の謀なくんば身をいさ地をうらん。某一の謀畧ありと霧浪を近付て。密國吾妻しよ石川民約之助と号る盜賊の強奪あり。子下の盗人百餘人ありて。賊衆よ高るより。皆くこれに因て時を見合。一所の館を造管せん。民約之助が武勇いよとわと問われハ逸平答て石川ハ生得暴逆の性質よて強氣の兎九郎よ増しり。某に抗衡して。互よ下舟よあし事を恨く。なりとこれをお果して。堅固よ便んと堂を造らりも安らんと云。長尾曰。唯理不及よ。お果さんともいれお。一先彼を斬て。君よ流り許して義黨となり。逃すんが討果れべと。森清忠次郎を近付て計謀を細くと授られ。忠次郎が密に。て。秀治よ吾妻山の土地の桶子。盜賊の風儀をらめくと







纒扱ふ者ありと云ふ。麻島も懸懸と某地は是て山主  
皆落く向後き下の指は是れ一と述り申。民初く脚  
立むより。是れ相文多く。此面蟹のぶとく。是れ是れとして剛  
強く。このゆきども。此後一步卒の形より。正面は大安射し  
て。汝悪次郎吾等下よ。至て備へきより。剛面はいつかる。之類  
よて大勢を斬り逐電せしむ。と云ふ。是れ麻島澤で山中よ  
爾等もんと。殊は脱よ。人ども。某本國よて人を殺傷せし  
こと。此らとをゆぐれ。なりと。逐一。次中を汝等が民初  
忽然き。皆り。汝等。某運の形なり。一時。殺人の仇を殺傷  
と。勇も。武勇。実し。振舞ふ。と。戦國よて。法將。各一勇。吏も  
これを。悲む。汝等。武勇。を。て。官。に。托。バ。爾。等。心。の。ま。た。る。べ。き  
よ。却。て。ま。よ。某。で。盜。賊。よ。い。ら。む。と。す。これ。実。心。よ。あ。ら。ず。必

高山を何よ為し。是れ。是れ。あ。ら。ず。と。云。ハ。麻。島。も。大。切。の。場  
所。なり。と。打。笑。て。申。さ。る。ハ。人。者。も。あり。某。仕。女。を。甲。バ。突。し  
富。貴。を。ゆ。ぐ。よ。易。し。然。も。度。々。戦。場。を。端。で。失。石。よ。あ。て。備  
え。性。命。を。惜。め。よ。失。ふ。是。は。友。の。な。り。ひ。を。り。山中。よ。至。て。某  
よ。信。り。何。と。備。傷。人。の。虐。よ。棄。て。お。れ。を。う。り。械。の。物。を。お  
が。め。し。而。後。よ。酒。色。博。奕。の。ま。た。に。樂。ん。こと。け。涯。の。喜。事。を  
己。思。果。を。疑。む。り。是。非。の。ま。を。を。て。秩。父。の。擧。げ。は。は。は  
る。こと。さ。り。げ。め。く。述。り。れ。バ。民。初。く。脚。始。て。お。多。し。は。は。は。苗  
時。人。回。の。喜。樂。我。業。よ。ま。た。す。智。く。深。る。て。一。切。を。立。バ  
何。よ。ま。す。く。用。べ。し。と。公。解。た。れ。バ。麻。島。も。大。に。恨。で。是。を。耐  
て。退。ぬ。世。時。平。井。の。城。よ。ハ。菅。大。膳。大。に。檢。化。太。尉。を。憑。て。押  
寄。お。果。さ。ん。と。さ。ひ。り。れ。ども。國。家。多。事。に。し。て。三十。餘。日。を



百人を討つて、皮筋の命と号して、急を打立、槍化太郎と  
 捕べしとなり、刑部人数を帥てある所の地まで。百姓を  
 集めて、禁固させ、漸く押切て、近き所まで、人数の足不休  
 め、所の者を、手て、太舟が、振るを、突、終の、あ、母、子、二人、住  
 て、従、ふ、士、あ、三人、計、ありと、告、され、刑部大、あ、て、菅、野、侍  
 して、め、は、大、勢、を、ひ、て、向、ハ、志、あ、り、る、我、不、覚、あり、い、ご、や、一、回  
 又、押、切、て、生、捕、べしと、人、数、を、指、揮、して、押、切、し、る、左、右、岩、壁  
 一、條、の、磔、路、を、越、り、り、り、時、た、ち、の、山、と、り、大、木、を、あ、り、  
 ち、り、て、澳、更、よ、半、を、遮、て、た、を、塞、く、目、の、筋、を、省、れ、バ、後、軍、首  
 領、十、人、を、捕、ち、若、帥、を、若、僅、よ、十、人、よ、り、し、た、煙、で、山、と、を、  
 ハ、警、塚、無、き、而、音、浪、逸、平、左、右、有、彭、れ、後、軍、は、向、て、大、音

あげ、神、仏、の、加、護、あ、る、太、舟、は、敵、せん、り、凡、人、の、及、ふ、あ、ら  
 ず、我、く、神、兵、の、命、を、突、て、め、づ、ら、を、打、殺、す、と、鬼、の、め、が、る、あ、士  
 山、を、一、時、は、弛、ち、き、ハ、人、数、何、六、八、向、ふ、べき、り、つ、と、と、  
 敵、ま、て、ま、え、来、り、た、へ、海、ら、ん、と、ま、れ、バ、山、の、橋、を、引、て、  
 敵、後、方、を、あ、さ、り、り、を、能、太、舟、逸、平、勢、よ、突、て、大、太、刀、を、振、  
 ち、て、双、方、より、難、立、ま、ハ、諸、軍、皆、地、に、伏、し、て、泣、悲、し、命、を、乞、  
 百、姓、等、を、あ、く、よ、皆、甲、冑、兵、蓋、を、脱、捨て、素、肌、よ、て、川、を、渡、る、  
 必、神、兵、の、咎、と、く、た、く、皆、く、性、命、を、つ、な、ご、ら、ん、と、啼、り、ま、れ、  
 億、病、神、の、附、く、軍、勢、一、回、は、武、具、を、脱、捨て、我、先、す、と、川、へ  
 跳、び、り、り、水、深、く、流、早、り、れ、バ、悲、く、如、く、満、ち、を、あ、人、遠、  
 く、追、討、して、殺、す、人、を、殺、傷、し、て、且、水、は、満、れ、て、る、軍、死、と、  
 よ、及、び、ま、れ、バ、あ、士、皆、て、相、圖、の、方、故、を、打、鳴、せ、バ、義、堂、殺、す



人馳集り、甲冑兵具を悉く細くし、一打揚り刑部ハ  
 後軍の破れをいへども、道あけきバ、思へば、退あやふ  
 儀の人敷も、行先も、いさる、要る有べしと、退あやふ  
 として、さる、あ、樵夫二人をり、奪り、れバ、内山、ほて、し  
 のを、を、あ、あ、人、ヤ、なる、を、君ハ、太、鼻、を、討、ま、の、將、あ、ら  
 す、也、彼、神、仏、の、代、身、も、て、權、化、と、云、途、申、神、冥、の、ち、り、あ、り  
 て、各、恙、なく、行、事、あ、ら、り、ド、百、一、彼、が、あ、ら、り、あ、ら、り、あ、ら、り  
 辨、す、く、ん、で、働、く、こ、と、す、し、後、終、り、て、た、の、岩、壁、を、踏、で、し  
 と、一、登、ら、ん、と、す、る、を、内、山、勢、と、押、止、て、後、は、此、等、ら、ら、り  
 如、く、乃、め、ま、て、危、難、あ、ら、り、何、卒、我、を、ま、ま、と、一、使、之、  
 寝、美、ハ、公、の、儀、も、あ、ら、り、と、云、バ、お、人、打、突、て、道、ち、り、さ、り  
 と、い、何、ぞ、寝、美、を、あ、ら、り、と、云、バ、あ、ら、り、と、云、バ、あ、ら、り、と、云、バ、あ、ら、り

手を伸して、内山、右、左、の、ま、を、と、る、刑、部、あ、れ、は、繼、て、救、ま  
 の、岩、壁、を、ま、ま、と、踏、破、ら、り、と、云、バ、あ、ら、り、と、云、バ、あ、ら、り、と、云、バ、あ、ら、り  
 ま、バ、お、人、多、く、内、山、を、引、捕、へ、て、ち、り、さ、り、と、云、バ、あ、ら、り、と、云、バ、あ、ら、り  
 も、回、て、後、終、り、て、早、く、に、地、味、も、と、味、ら、り、と、云、バ、あ、ら、り、と、云、バ、あ、ら、り  
 甲、冑、を、脱、け、て、を、裸、に、な、り、と、云、バ、あ、ら、り、と、云、バ、あ、ら、り、と、云、バ、あ、ら、り  
 石、を、弾、右、左、の、ま、を、と、る、刑、部、あ、れ、は、繼、て、救、ま  
 け、バ、士、率、伏、お、も、て、跡、を、も、り、と、云、バ、あ、ら、り、と、云、バ、あ、ら、り、と、云、バ、あ、ら、り  
 戸、と、原、十、太、丈、な、り、掛、る、と、云、バ、あ、ら、り、と、云、バ、あ、ら、り、と、云、バ、あ、ら、り  
 是、れ、ハ、賊、戸、下、甲、人、も、ち、ん、で、は、獲、物、を、持、つ、て、太、鼻、の、家  
 へ、海、け、き、バ、長、尾、酒、食、を、調、へ、賊、戸、始、五、士、を、襲、し、首、を、取、り  
 して、大、地、を、ゆ、ら、り、と、云、バ、あ、ら、り、と、云、バ、あ、ら、り、と、云、バ、あ、ら、り



計法士の武勇傑は得ざるさの突なりと褒美みせて内山  
を引寄して。太郎云々のハ吾ハ足利の嫡流なれども。民間  
は處て非ざる事となしむ百姓を極め強ひてをなす  
ず憲政いさざるをわめて討を向らさつと脅されハ内  
山神威も怒り思ひび匹を上げ。某主人の心をうつる。若大  
膳某も命として討をとり。何の事と云事をとる。若大  
笑て若大膳ハ忠良を賊ハ奸臣なり。不えして官領の証を  
亡さんハ信守の憲政これを弁せび。又ハ官將あり。汝等武  
臣として。これを憚ることあるらん。却て若大は福を急め  
討をせざる事と不覺の事なり。然とも汝ハ科なり。只今  
許して過ぐべし。憲政をさして若大を刑して。万民の苦  
政へべし。と云事。命として討をさせ。京平若大ハつた處て

川を越て甲冑太刀を奪ひて素肌を遁放せり。世曲を傳  
ずて竹浪泉源を始として義黨入かたり。其の勢を  
奇討に感服せり

足利太郎入吾妻山事

去程内山刑於すつと平井へ立降。右の趣を訴へられ  
ハ菅大膳大に恨み懐くと云も。神仏加護の呪よを疑ひ  
憲政へ違して。太郎足利の正統と云を奉り。君より使節を  
遣して對面あるべし。由を云送らハ。彼果して恨むらん。若  
て生擒となしむべし。恐り討をせしむるハ。人殺の損むる計  
して。其功をなすことならん。と云々。官領例のめく免  
も。命をかび下しと脅ハ。菅大は怒り内山を使節として。花  
やうよ出させ。妙義山へ差越せり。太郎の宅よてハ長尾謀



極て若妻山へ入るべしと評定ありて、原ハ隱家へ歸りて  
 母公を養育し、旁浪根本も色が屯へ歸り、石里を遣へ  
 て、惣極が備主をもちて、竹波泉邊ハ六の地はあつて、資利  
 潤達を任とせしべしや、相圖定りたりしへ、内山使節として  
 来りければ、為明死て、菅が抽計、思其意を脱破して、追得  
 るべしと云、太郎心ひて、内山をもち、さ入られ、威儀を心  
 して、憲政の命をつくり、君ハ心く足利の嫡流なるより、主君  
 大よ警歎して、然ハ當家より疎きあるべし、何卒城中  
 来りて、あつた、一所の城地を奪して、永く好を結ぶ、首喜れ  
 許容あつた、歎あは堪どと、謹で述べられ、太郎色を心して  
 汝前日必死の命を賜け、遣り、ハ憲政の愚暗をむらさ、奸  
 臣を刑罰せしめ、為たり、然るよ、その名を失ふのこがら、亦

のや、菅が奸計を更て、某を方便と、油賣に士よあらず、けれ  
 答の河あり、油賣よく計ふべしと、この外、怒のいろを、刃を  
 て、真へ入られ、内山者ひつら、遠く、立海を、根本石里  
 たちより引居て、夜に大小を、た捕て、一夜の上を、郷上、小  
 刀を、鼻を、そので、遠を、おし、佐の下、率も、一回よ、耳、鼻  
 を、批へしと、割れ、バ、ワ、リと、呼て、主人を、引立、逸、系、よ、逃、行、と  
 且、主、從、大、よ、打、突、て、定、て、押、ぬ、り、て、大、軍、を、差、越、ん、い、さ、や、お  
 立、べ、し、と、諸、士、よ、服、を、の、り、た、れ、ハ、旁、浪、下、か、り、ひ、く、よ、立、海  
 ま、り、ま、り、お、銭、を、ま、く、竹、波、泉、邊、へ、引、け、り、甲、曹、兵、具、ハ、旁  
 浪、が、ま、り、を、拵、て、兼、く、本、陣、の、惣、隊、が、あ、り、て、送、り、せ、り、諸  
 し、も、本、陣、ハ、長、尾、城、所、惣、隊、を、送、へ、て、唯、四、人、立、出、て、傳、書、係  
 よ、入、て、山、中、よ、止、宿、し、主、從、温、泉、よ、浴、し、て、旅、宿、を、ま、し、



月いまだ高けれバ山井を歩せんと。四人のりたし山を攀て  
回中。着す敷里を越々るは。高き及立ゆらんを  
こころは。深河の辺より。あを移し。ある者たひて。荷相あ  
擔ひつれて。十数人。海りう。中たれば。無太郎山より。指て  
不運なる。女旅人。今盗賊の。手ふ。あを奪れんと云  
くれハ。長尾英て。足下を業よ。女する。といとも。何して。是を  
ある也。密家。着て。あを奪れ。をうけて。南のごとき。旅人ある  
時ハ。相手を。なり。山井より。押出。て。是を奪ふなり。先別  
待の色。頻なり。金。是。旅人を。移る。なり。と。何い。あを。移る。なる  
よ。吾妻。山より。盗賊。救十。あ。あ。して。前後より。換。なり。是  
を。うると。婦女。老幼。一回。泣。叫。て。走。り。つ。ま。り。も。因。事。を。見。て。  
太郎不便の心。い。く。く。吾。これ。を。助。て。盗賊。を。追。拂。んと。真。途。

梯。お。弛。くれ。バ。三。士。於。縁。なく。押。後。で。禁。に。あり。城。戸。警。備。は  
本。を。捻。切。て。是。を。握。立。太郎。盗。物。太。刀。を。拵。て。我。々。凶。業。を。働  
なり。終。く。こと。あ。れ。と。あ。は。の。盗。を。追。た。れ。ど。大。は。終。く。途。去  
り。石。火。圍。ハ。一。人。の。盗。人。と。只。二。人。太郎。を。目。掛。て。切。て。く。る  
を。ゆ。ゆ。り。と。あ。を。用。て。撲。り。く。る。ハ。一。人。車。切。は。なり。た。れ。バ。ず  
く。さ。び。圍。ハ。切。也。て。勢。く。鉄。を。刃。々。り。る。ガ。白。光。忽。眼。よ。み。て  
恠。自在。なる。これ。バ。引。弛。して。途。那。を。監。物。返。し。て。弛。り  
し。が。山。路。は。列。る。圍。ハ。入。る。ガ。何。は。途。去。り。主。従。それ。り  
旅。人。を。送。り。て。伊。香。保。へ。立。ゆ。れ。バ。大。小。男。女。伏。お。う。て。感。涙  
を。ぞ。流。し。り。る。二。更。の。ころ。旅。宿。へ。ゆ。て。太郎。は。く。警。備。を。戒  
て。を。来。る。業。に。暴。を。な。す。は。と。あ。は。れ。程。更。は。後。言。この。働。を。及  
へ。ら。ん。吾。今。日。も。め。て。其。業。の。暴。悪。を。あ。り。て。こ。を。知。れ。ん。と。



あれは然るに、憤て言ふ、深く心勝る、然るに、生涯は業を改むべしと。慨然として心決り、されば、毛尾城に、太師に、慈仁、警塚が義よ、いさむを感じて、警塚活かす、前刻の旅人、酒者を、死せしめて、太師の旅宿へ、贈り、されば、深く、まれを、辞退、あせられ、とも、活命の大恩、百一、此寸志を、交す、い、ま、ん、む、何の、日、う、恩、の、千、一、を、謝、と、ぐ、と、な、げ、さ、祈、れ、ば、是、非、を、く、細、更、あれ、ば、旅、人、の、大、は、後、で、悔、り、ぬ、ま、後、酒、食、を、使、く、潤、して、を、取、を、何、し、翌、日、に、從、四、人、吾、妻、の、所、へ、し、り、く、警、塚、を、先、達、と、して、石、川、が、お、よ、む、り、門、を、あ、ま、り、て、無、岩、境、の、警、塚、太、師、石、川、は、ま、前、用、阿、阿、て、致、意、を、ま、り、ま、首、を、垂、れ、へ、し、と、嘆、り、られ、ば、門、内、よ、人、音、と、て、門、を、た、お、よ、む、き、七、八、人、の、盜、り、も、あ、側、よ、平、伏、せ、り、警、塚、三、人、を、捉、て、自、ら、死、ん、だ、門、へ、入、れ、れ、ば、

石火園八麻、警塚、要、太、師、座、を、一、請、り、て、礼、を、厚、く、思、考、さ、り、光、輝、幸、氏、於、に、曲、在、宿、仕、事、ハ、山、口、と、中、野、人、と、遊、り、り、り、は、警、塚、會、新、と、と、座、を、車、り、太、師、三、人、を、末、席、を、座、せ、り、め、て、二、人、よ、向、て、お、取、の、者、根、山、主、の、股、肱、と、刃、を、り、り、某、是、へ、ある、こと、餘、の、美、よ、何、と、す、ば、若、者、ハ、妙、義、山、の、禁、の、御、士、と、せ、せ、ま、と、な、り、後、に、太、師、な、り、酒、の、あ、人、ハ、某、方、は、困、ひ、る、英、士、な、り、太、師、は、酒、を、井、味、の、討、を、引、受、て、是、非、を、お、れ、る、劇、筆、一、家、早、彼、地、よ、位、形、を、り、其、妙、義、某、酒、の、席、よ、さ、れ、を、酒、を、れ、ば、む、す、す、ふ、れ、て、民、神、殿、の、下、に、な、り、働、き、さ、る、お、なり、困、難、を、り、難、く、な、果、し、り、は、首、を、斬、り、ぬ、れ、と、な、れ、ば、あ、人、死、を、り、て、遂、一、よ、酒、を、入、れ、れ、男、も、な、く、酒、者、を、出、晚、炊、を、甘、く、潤、し、て、出、られ、警、塚、三、人、は、解、り、れ、り、も、連、て、す、



むらよらつて。四人を會し。半時をりて。圍ハ立出て。山を  
 射殺のこよて。由相後よ及へ。さのこ殺なれば。暫に相あ  
 ぬ。と云て。座をり相あつて。一圍は。徳ドクれば。徳太郎  
 二人を射て。有り。ま。莊殿玉をこぐ。恰も王公の居位  
 の如し。あまなく。氏初。胸廣袖の續衣。大太刀を携て。人  
 て。勢。向て。むんぞと。半。くれば。圍ハ。惡。以。府。た。右。列  
 ぞ。人。も。鬼。も。あ。れ。る。荒。者。七。八。人。を。殺。し。半。あ。り。  
 ぬ。人。一。列。後。の。礼。義。を。連。て。勢。塚。殿。の。次。身。を。後。引。て。偏。に。射  
 入。む。ま。を。あ。て。太。郎。を。引。合。て。對。面。な。り。む。ら。よ。太。郎。を。所  
 勢。塚。邊。院。の。由。某。某。魚。の。身。難。よ。あ。つ。て。進。退。所。な。り。山  
 主。の。下。知。を。あ。て。後。め。の。働。を。し。生。を。の。ま。り。と。し。け  
 れ。ハ。石。川。熱。く。太。郎。を。見。て。我。山。城。を。業。と。して。奉。り。時。と

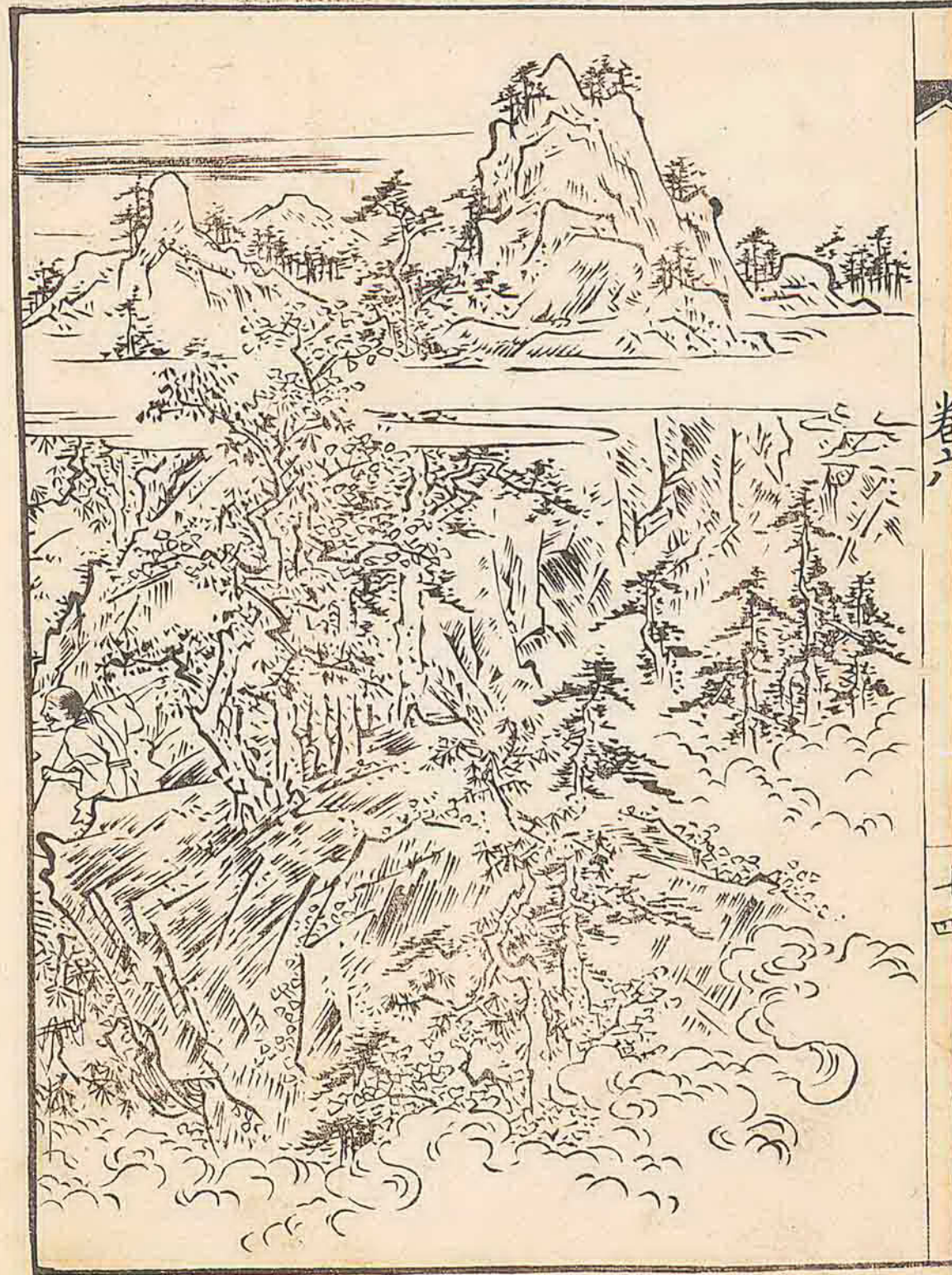
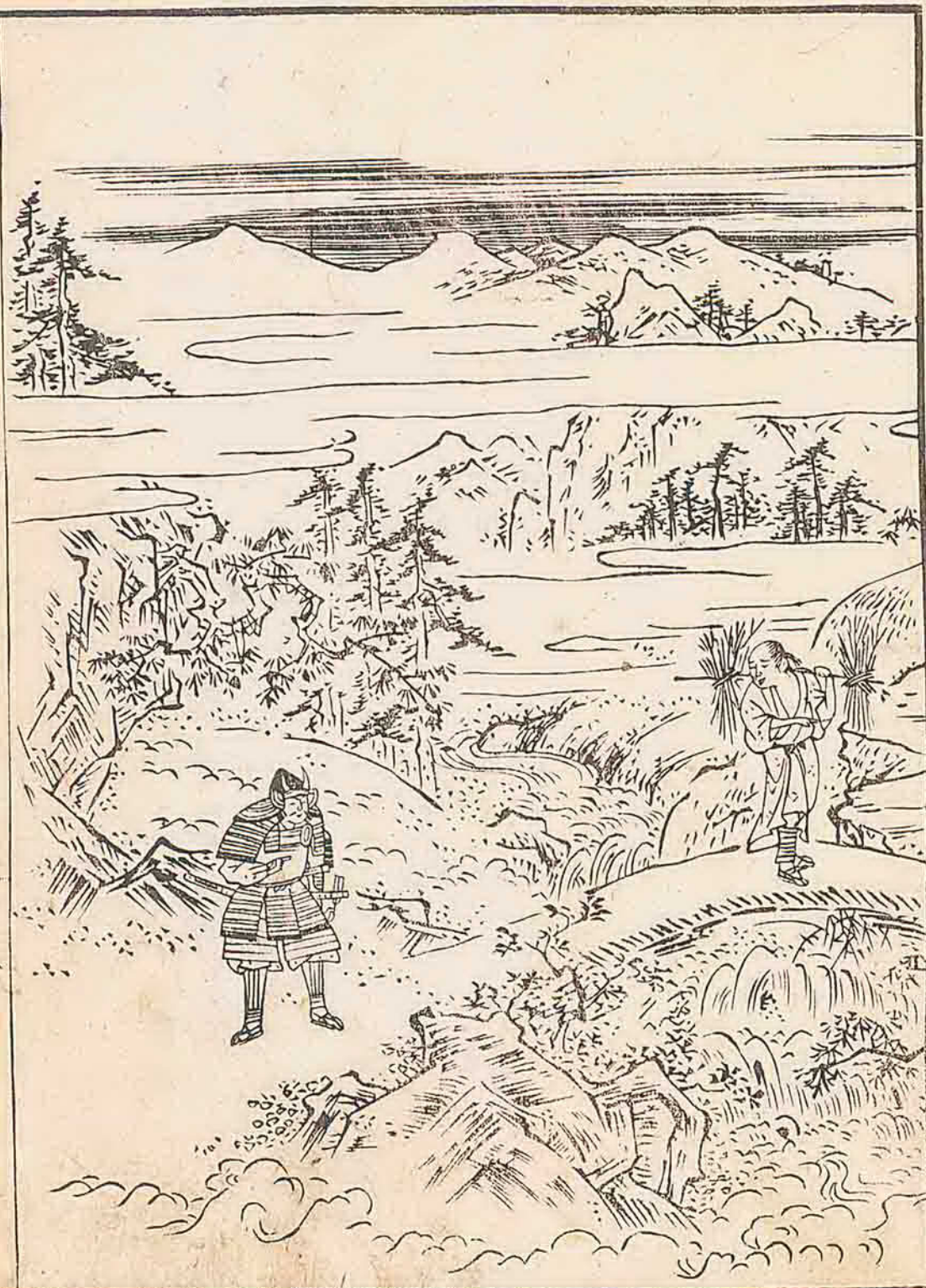
ふとも。太。郎。の。容。貌。凡。人。よ。あ。ら。ず。申。之。盜。賊。の。境。界。よ。入。る。ま  
 人。よ。何。ら。び。殊。よ。内。者。よ。ら。つ。て。後。方。も。我。を。程。で。来。られ  
 一。と。考。え。り。吾。下。を。傳。て。び。人。を。指。揮。し。る。事。計。し。べ。う。に。は  
 早く。武。勇。の。花。度。よ。便。て。ま。事。を。取。り。合。へ。各。自。の。勢。ハ。先。是  
 を。傍。よ。べ。と。と。申。は。山。主。は。極。子。あ。ら。れ。ば。為。的。出。て。某。ハ  
 勢。塚。方。よ。偶。希。と。て。一。層。を。助。る。者。行。り。今。太。郎。一。音。量。の  
 事。と。云。と。も。下。後。の。事。よ。せ。れ。て。武。勢。は。暗。し。何。國。へ。行。と。云  
 とも。諸。侯。何。を。先。を。容。む。山。主。人。を。廣。く。下。知。して。ま。各。自。他  
 て。よく。生。を。な。り。む。ら。よ。一。國。の。知。を。あ。り。あ。つ。て。太。郎。勇。浪  
 を。厭。て。苗。山。よ。来。る。ま。を。憐。れ。て。あ。れ。を。後。后。あ。つ。め。よ。と  
 云。ら。り。ま。麻。呂。す。あ。て。諸。國。の。山。主。は。張。本。等。と。い。ふ。も  
 人。と。武。勇。を。あ。ひ。あ。り。ハ。一。山。の。眉。目。な。り。太。郎。も。亦。自。傳。の



者より手申さるれば、山を指搦るは、一方の山は五べしと云  
民約心決せし、然して居りし、六、警塚回身不肖を  
れども、我も亦一方の張中より、是は歩をいふんで一人を  
托せり、よき所、心裏は深ざれば、如何もあらず、是れを  
く、(運)をゆると、席を起んとする、何、長尾麻呂、目くバ  
せすれば、悪次良色を扇して、一山の株、果たせりて、一英士  
を、若より、何、諸方の、候を、受け、警塚の、怒情を、破  
て、其、業、は、幾、多、く、何、も、善、量、の、め、此、獲、と、い、ひ、な、れ  
バ、民、約、天、は、怒、て、汝、害、人、の、業、と、我、を、さ、ら、に、無、礼、な、り  
と、云、れ、バ、因、八、回、山、主、は、人、を、留、る、と、云、れ、来、り、人、を  
より、見、知、あり、と、云、れ、バ、麻、呂、の、破、れ、たり、と、か、し、ひ、  
突、然、と、一、羽、掛、て、民、約、の、胸、を、わ、て、伏、せ、ハ、奴、も、去、者、と、し

起あがんとす、強く押さくめて、大の眼をいらけて、汝、半  
の、計、と、して、勇、者、を、走、す、る、事、を、知、れ、太、席、ハ、天、の、縦、る、勇、者  
は、眼、わ、ら、道、は、お、伏、し、て、山、主、と、仰、き、ら、下、の、列、は、な、る、べ、し、お  
僅、も、こ、ろ、不、及、を、知、て、是、の、石、を、さ、ら、に、却、て、返、去、ん、と、し、我、油  
を、敷、く、て、太、席、を、考、ん、て、山、主、と、な、り、と、突、放、し、て、援、打、の、切  
り、よ、何、を、ま、さ、む、べ、し、民、約、の、胸、を、破、り、た、り、て、警、塚、の、目、を、  
深、く、切、也、り、因、八、回、山、主、と、ま、さ、り、何、を、城、戸、持、廣、理、出、て、  
只、一、刀、は、切、殺、せ、ハ、警、塚、を、傳、立、上、て、七、人、を、目、掛、て、忽、一、人、を  
切、倒、せ、バ、跡、は、六、人、迹、出、る、と、城、戸、麻、呂、警、塚、追、追、て、残、り、ず、切  
留、悪、次、郎、相、圖、の、太、鼓、を、鳴、せ、ハ、百、餘、人、の、盗、と、も、須、臾、も、集  
集、ま、り、何、太、席、を、正、面、に、向、し、長、尾、を、め、二、英、警、塚、左、右、よ、  
列、して、盜、賊、つ、ら、よ、と、い、ひ、此、度、民、約、の、胸、を、持、化、太、席、の、武、徳、を







弁す。あれを遊遊んとあすよ固て、急刑符を加へり。固ハ  
 下七人の者も、款對を固て、皆成なる。ゆ等後、  
 件人、後いせん、是を中よせり。嗚り、これ、一同よ  
 平休、我々、重て、石川を、喝き、とも、論方、今日、御死、権  
 化太郎の、下と、なる、人の、本、見よ、る、びと、ヤ、丸、  
 二、款、ある、て、山、岸、の、賊、室、を、集、て、三、分、の、一、を、  
 恩、賜、あれ、盗、本、取、を、た、いて、恩、と、謝、り、  
 此地、水、く、飯、と、か、け、お、よ、ほ、す、と、い、ども、堅、固、す、て、  
 世、の、姿、を、伺、ふ、便、あり、と、是、より、盜、賊、を、制、して、資、用、を、  
 一、母、公、を、も、呼、向、く、長、尾、ハ、城、戸、麻、島、よ、万、事、を、  
 所、へ、ゆ、り、これ、が、城、塚、も、眼、の、り、て、屯、ハ、立、ゆ、り、ぬ、  
 の、後、麻、島、よ、命、して、ゆ、羽、及、へ、立、越、て、義、堂、を、り、  
 山、取、ハ

即に對面して、侍て立ゆるべしとあり、これハ、悪次郎、畏て立  
 出り、是より城戸大坊を、指揮なり。勇浪竹、浪泉、  
 又相傍ひ、原十、末、根、本、結、く、ハ、來り、住、て、左、右、を、  
 一、色、原、が、妻、女、母、君、よ、う、づ、さ、智、妻、赤、の、長、を、  
 一、色、  
 一、色、

麻嶋悪次郎旅達武勇事

附水上忠藏百九十九事

去程、悪次郎ハ、忍命を、受、て、下、ゆ、ま、ら、  
 對面して、ま、より、羽、及、へ、と、急、り、る、春、二、月、の、末、  
 和、駢、して、山、々、花、開、け、旅、達、の、旁、を、  
 店、よ、入、て、酒、肴、を、出、さ、せ、亭、主、と、  
 一、黨、の、武、勇、程、度、の、務、負、の、業、を、  
 今、見、る、め、く、物、法、を、  
 一、酒、



に麻呂真<sup>まろまこと</sup>と云して是を多<sup>た</sup>買<sup>かひ</sup>入<sup>い</sup>す救<sup>すけ</sup>盃<sup>さき</sup>を傾<sup>かたむ</sup>きしハ大<sup>おほ</sup>に酔<sup>よ</sup>け  
 所<sup>ところ</sup>に衝<sup>つ</sup>く酒<sup>さけ</sup>罍<sup>たい</sup>をこ<sup>こ</sup>置<sup>お</sup>て及<sup>およ</sup>ぶる多<sup>た</sup>くハ碎<sup>くだ</sup>眼<sup>まなこ</sup>見<sup>み</sup>るるさ  
 くらがらす。或<sup>ある</sup>ハ縦<sup>たて</sup>或<sup>ある</sup>ハ横<sup>よこ</sup>一<sup>いっ</sup>歩<sup>ぽ</sup>高<sup>たか</sup>くあ<sup>あ</sup>れバ一<sup>いっ</sup>歩<sup>ぽ</sup>ハ卑<sup>ひ</sup>く  
 行<sup>ゆ</sup>村<sup>むら</sup>家の小<sup>こ</sup>鬼<sup>おに</sup>十<sup>じゅう</sup>数<sup>すう</sup>人<sup>にん</sup>指<sup>さ</sup>して去<sup>さ</sup>れを笑<sup>わら</sup>ふ。麻呂もんをり  
 去<sup>さ</sup>く。戯<sup>あそ</sup>ぶこれと追<sup>お</sup>ハ小<sup>こ</sup>鬼<sup>おに</sup>四<sup>し</sup>方<sup>はう</sup>ハ逃<sup>にげ</sup>をて忽<sup>たちまち</sup>集<sup>あ</sup>つて手<sup>て</sup>を拍<sup>ち</sup>次<sup>じ</sup>  
 と罵<sup>のの</sup>して是<sup>こゝ</sup>を笑<sup>わら</sup>ふ。亦<sup>また</sup>追<sup>お</sup>掛<sup>か</sup>れ逃<sup>にげ</sup>散<sup>さん</sup>を面白<sup>おもしろ</sup>く思<sup>おも</sup>つ。大<sup>おほ</sup>道<sup>だう</sup>を踏<sup>ふ</sup>  
 迷<sup>まよ</sup>ひ。徑<sup>みち</sup>踏<sup>ふ</sup>へ行<sup>ゆ</sup>とも覺<sup>おぼ</sup>へま<sup>ま</sup>して小<sup>こ</sup>鬼<sup>おに</sup>よさそ<sup>そ</sup>つれ。二<sup>に</sup>里<sup>り</sup>計<sup>けい</sup>  
 も初<sup>は</sup>ららぶ。石<sup>いし</sup>よつま<sup>ま</sup>づき横<sup>よこ</sup>さぬ<sup>ぬ</sup>は倒<sup>たお</sup>れらる<sup>る</sup>が。ま<sup>ま</sup>倒<sup>たお</sup>れ<sup>れ</sup>こ  
 して前後<sup>ぜんごう</sup>を初<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>ず。小<sup>こ</sup>鬼<sup>おに</sup>ハ大<sup>おほ</sup>に指<sup>さ</sup>笑<sup>わら</sup>て、ま<sup>ま</sup>くま<sup>ま</sup>つりぬ。日  
 西<sup>にし</sup>山<sup>さん</sup>よあ<sup>あ</sup>て晚<sup>ゆふ</sup>風<sup>かぜ</sup>冷<sup>ひや</sup>く。身<sup>み</sup>よ何<sup>なに</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>れバ麻呂<sup>まろ</sup>睡<sup>すい</sup>夢<sup>む</sup>を<sup>を</sup>  
 茫然<sup>まぜん</sup>と<sup>と</sup>起<sup>お</sup>き<sup>き</sup>れバ地<sup>ち</sup>よ<sup>よ</sup>伏<sup>ふ</sup>し居<sup>ゐ</sup>り<sup>り</sup>。四<sup>し</sup>方<sup>はう</sup>を顧<sup>か</sup>み<sup>み</sup>ハ何<sup>なに</sup>  
 とも<sup>とも</sup>分<sup>わか</sup>れず。大<sup>おほ</sup>に驚<sup>おど</sup>き<sup>き</sup>怪<sup>あや</sup>し<sup>し</sup>我<sup>われ</sup>批<sup>ひ</sup>狸<sup>り</sup>の者<sup>もの</sup>よ倡<sup>おど</sup>り<sup>り</sup>て及<sup>およ</sup>ぶる

しう訝<sup>あや</sup>まると思<sup>おも</sup>維<sup>い</sup>すれバ小<sup>こ</sup>鬼<sup>おに</sup>と戯<sup>あそ</sup>ぶる<sup>る</sup>を夢<sup>む</sup>の如<sup>ごと</sup>く思<sup>おも</sup>  
 出<sup>で</sup>して儲<sup>たくら</sup>ハ強<sup>つよ</sup>く酒<sup>さけ</sup>を酔<sup>よ</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>。搦<sup>な</sup>笑<sup>わら</sup>して腹<sup>はら</sup>中<sup>ちゆう</sup>尤<sup>なほ</sup>熾<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>及<sup>およ</sup>  
 しく。免<sup>めん</sup>角<sup>かく</sup>ハ人<sup>にん</sup>あ<sup>あ</sup>便<sup>た</sup>んとあ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>を<sup>を</sup>らる<sup>る</sup>。村<sup>むら</sup>屋<sup>や</sup>ハ<sup>は</sup>足<sup>あ</sup>す<sup>す</sup>  
 倒<sup>たお</sup>せて歩<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>れバ一<sup>いっ</sup>村<sup>むら</sup>よ<sup>よ</sup>む<sup>む</sup>て大<sup>おほ</sup>き<sup>き</sup>あり<sup>り</sup>。是<sup>こゝ</sup>よ<sup>よ</sup>便<sup>た</sup>て<sup>て</sup>一<sup>いっ</sup>粒<sup>つぶ</sup>を<sup>を</sup>  
 さん<sup>さん</sup>と立<sup>た</sup>ち<sup>ち</sup>去<sup>さ</sup>り<sup>り</sup>。旅<sup>たび</sup>の者<sup>もの</sup>行<sup>ゆ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>道<sup>みち</sup>よ迷<sup>まよ</sup>て及<sup>およ</sup>ぶる。本<sup>ほん</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>何<sup>なに</sup>卒<sup>そつ</sup>  
 宿<sup>しゆく</sup>を<sup>を</sup>作<sup>つく</sup>玉<sup>たま</sup>りん<sup>りん</sup>やと<sup>と</sup>も<sup>も</sup>り<sup>り</sup>。下<sup>した</sup>宿<sup>しゆく</sup>も一<sup>いっ</sup>回<sup>かい</sup>も<sup>も</sup>な<sup>な</sup>ハ釋<sup>しやく</sup>舎<sup>しゃ</sup>  
 わ<sup>わ</sup>る<sup>る</sup>人<sup>にん</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>こと。叶<sup>か</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>相<sup>あい</sup>な<sup>な</sup>く<sup>く</sup>云<sup>い</sup>け<sup>け</sup>り。村<sup>むら</sup>家<sup>か</sup>の<sup>の</sup>  
 と<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>ひ<sup>ひ</sup>て。六<sup>む</sup>十<sup>じゅう</sup>有<sup>ゆう</sup>餘<sup>りゅう</sup>の翁<sup>おきな</sup>鹿<sup>か</sup>島<sup>しま</sup>が<sup>が</sup>ん<sup>ん</sup>て家<sup>いへ</sup>ハ尋<sup>ゆ</sup>常<sup>じょう</sup>の<sup>の</sup>人<sup>にん</sup>よ<sup>よ</sup>あ  
 ら<sup>ら</sup>ズ。旅<sup>たび</sup>中<sup>ちゆう</sup>の誰<sup>たれ</sup>か<sup>か</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>者<sup>もの</sup>と<sup>と</sup>なり<sup>り</sup>。宿<sup>しゆく</sup>を<sup>を</sup>ま  
 わ<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>せん。一<sup>いっ</sup>粒<sup>つぶ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>こと。ヤ<sup>や</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>。麻呂<sup>まろ</sup>大<sup>おほ</sup>に<sup>に</sup>取<sup>と</sup>り<sup>り</sup>  
 思<sup>おも</sup>ひ<sup>ひ</sup>。旅<sup>たび</sup>具<sup>ぐ</sup>を<sup>を</sup>解<sup>と</sup>けて<sup>て</sup>座<sup>ざ</sup>敷<sup>しき</sup>よ<sup>よ</sup>入<sup>い</sup>れ<sup>れ</sup>バ湯<sup>ゆ</sup>浴<sup>よく</sup>を<sup>を</sup>せ<sup>せ</sup>食<sup>し</sup>事<sup>じ</sup>  
 と<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>ひ<sup>ひ</sup>。進<sup>しん</sup>た<sup>た</sup>れ<sup>れ</sup>バこ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>く<sup>く</sup>是<sup>こゝ</sup>を<sup>を</sup>個<sup>こ</sup>て<sup>て</sup>。後<sup>のち</sup>宿<sup>しゆく</sup>を<sup>を</sup>立<sup>た</sup>ち<sup>ち</sup>出<sup>で</sup>て<sup>て</sup>其<sup>その</sup>姓<sup>せい</sup>を<sup>を</sup>



尋ぐれば、本名を言ひて、上原の者と云。箱袋てあるとい  
 川に下りて、常陸の人なり。某ハ之く此里に住居して、仕立を  
 志す世をいそいで自ら樂む。百々舟楫と号して、近村を用  
 られて、家系貧乏ならずして、修るは麻島包は、ほまれず。我姓は  
 出知を多く、物持せしよ。主人請て、借し我尋常の人と云す。  
 一室の肉ありて、十数人を殺傷する英士とありしや、麻島  
 怪て箱袋何して、是を去るや。箱袋、某二人の勇士、一人の女  
 子あり。二子武藝を好んで、去れと勵み、足を九十九と云す。  
 小夜と号し、因茲、因武藝、遠る人を知り、麻島を懐慕、武  
 藝を勵み、某事、業を好む。とも、好んで、交を結ぶ。箱袋、密  
 子對して、修るも、恥べし。りあがら。二子性、質、好、暴、し、て、去れに  
 つく事とあり。己う、彬、増る者、疾く、好く。己、不、及、者

をハ、嚙、して、解、む。才、を、暴、戾、なり。故、は、あ、る、は、終、有、る  
 る、が、強、く、す。姓、名、を、あ、り、ぬ、ふ、ら、ん。一、人、ハ、女、子、と、せ、し、日、温、和  
 に、して、我、を、あ、り、と、呼、び、て、對、面、な、し、む。容、顏、務、れ  
 て、美、く、年、十、七、八、ら、り、也。箱、重、て、二、人、の、伴、二、荒、山、を、穿、ぬ、れ  
 ハ、幽、宅、せ、し、る。五、六、日、の、間、わ、ら、ん、急、急、と、修、り、つ、ら、ハ、常、々、  
 と、滞、留、あ、り、て、武、勇、の、物、持、も、あ、り、と、修、り、つ、ら、ハ、常、々、  
 也。も、只、者、が、あ、り、と、思、ひ、我、事、業、を、勤、め、入、ん、と、思、ひ、れ、ハ、惡、を  
 御、して、宿、ぬ、翌、日、箱、重、を、向、て、某、う、娘、暴、悪、の、見、え、は、從、て  
 心を安んずるといふ。何事、あ、り、と、修、り、つ、ら、ハ、常、々、  
 也。と、某、ハ、修、り、の、者、一、身、も、い、ま、い、ま、と、安、ん、ず、と、何、が、妻、と、傳、へ  
 べ、と、箱、袋、と、い、ふ。今、丈、婦、と、な、り、て、娘、ハ、某、事、業、を、勤、め、出、身、の  
 時、は、某、と、せん。殊、ハ、娘、智、あ、り、て、某、事、業、を、修、り、つ、ら、ハ、常、々、



君よ運てより心類も慕ふ深くさうしひ趣のよるうれと  
 云よ麻島も思ふよあうざれば其詞は後ひくれは翁向  
 赤色をわらう娘を呼て盗を取替して其日婚姻さう色  
 よりも夫婦心懐く誇くれは翁限りなく執事し二兄由  
 事とたうしめんとて二人和融してあふ目をさうぬ或  
 風ぬ忍ぶ執事時あふ人は命して今昔盗賊何んぬ  
 心して門戸をさうしめんとて麻島守て世代さうめて盗賊  
 さや翁笑て今や戦國の間人民の居住城郭わらうの所は  
 何ぞ此郷のくさうんや麻島休してさうさうりい盗賊の  
 張本何と名付翁曰水と忠義といふ盗賊武勇何つて亦具  
 思をるは是も傍る盗人か麻島まを記経し親子眠は

物々多し執事して妻息は麻島守て盗賊取入り  
 君由新さうさうと云思次郎心得るものと起よりぬハ父  
 若知せよと太刀押して縁へ出せぬを越て五人入り  
 麻島何ふ城ん真一文字よをさう花とりて抜向も刃せ  
 二人をたぢは切傷せぬ盗大は仰天と神人此家をさる  
 多く引れと赤色のさう城を越て逃去り事時翁を出  
 ては翁執事を見て大に感んすに傍り妙術は天下無双  
 かのりと云妻ハ麻島が働を刀で心承服し情益さうて身  
 控てよく後し翌日を隣麻島が働を定て皆く大に祝賀し  
 て塔を撰びらるを考うれば翁さうは謝辞をい麻島に  
 向て二人の侍は深く包こ儀よりして婚事をなすしめんとせ  
 し今何せん近隣されをさうて候を許す二子ゆり事



必や換るべし。はよハ酒必用後をりたるや。業を心てさ  
 心を後せしめ。一人心を改む。老の教。何ぞ是と志しんと  
 涙を流してやられ。麻島も其心を悟り。其力を尽して。二  
 見を和親にまじり。めんとして。親も心を安んずる。あふ  
 目をみて。兄弟を酒で。父妹の對面せし。時。時。時。麻島を名  
 て二人より合は。旅ある。麻島。悪次郎なり。不思議  
 旅宿をすして。世人の為。誠を免れ。武勇を感して  
 妹を妻にす。は。は。は。以後。兄弟の好をすして。心を隔る  
 る。や。れ。と。や。られ。兄弟。甚。ま。の。心。面。あ。ら。わ。れ。て。是。飛  
 び。く。對。面。し。り。り。り。九十九。を。俣。座。へ。あ。り。り。本。刀。を。以。て  
 麻島。を。抱。き。ま。り。人。の。材。を。以。て。塔。を。あ。ら。わ。す。士。人。の。資。を。以。て  
 其。富。を。あ。ら。わ。す。一。刀。を。含。め。め。が。差。を。試。ん。と。し。麻。島。初。め。り。

ことなれば。後。後。なく。互。向。て。九十九。を。對。し。二。度。擊。て。二。度  
 本。刀。を。お。ち。せ。り。九十九。ん。腹。を。突。き。ぬ。ぬ。無。双。の。業。が。り  
 と。既。に。悪。念。を。離。せ。り。小。鷹。刀。を。あ。ら。わ。す。太。刀。打。務。ま。す。り。と。も  
 か。量。が。く。ん。の。勇。士。よ。あ。ら。わ。す。と。側。の。踏。石。尺。竹。が。り。を。以。て  
 互。て。引。上。り。麻。島。が。真。向。へ。投。付。り。父。妹。は。つ。と。互。を。け  
 る。が。悪。次。郎。其。俣。刀。を。完。全。に。申。上。り。交。と。め。い。り。り。塔。は。ま。ご  
 さん。が。れ。と。笑。て。下。小。遣。な。れ。ば。親。子。二。人。思。ふ。ふ。び。且。感。づ  
 かり。小。鷹。の。益。憤。里。の。名。を。あ。ら。わ。す。無。言。し。り。て。互。を。り。  
 九十九。父。の。前。に。お。伏。し。某。只。今。ま。で。僅。の。術。を。傳。へ。て。父。よ。違  
 ひ。難。い。恩。を。見。せ。ば。人。を。侮。り。て。悪。逆。の。小。鷹。を。勇。者。と。思。へ  
 る。今日。麻。島。の。勇。力。武。術。を。見。て。心。始。て。悟。り。前。狀。を。悔。て。互  
 ら。め。め。れ。れ。小。鷹。の。氏。の。神。なり。と。互。を。悪。次。郎。を。お。り。



くれハ麻島懐徳平依一夫兄善心ニ歸てたよと  
 果ガ幸よ何らず兄の幸よ何らず又父兄の幸なりと  
 ちよ親子歎きして多時九十九の年をたて六十及び  
 て始て誠の男子をゆとりと涙を流しつゝ九十九の  
 世伏して只泣より外ず麻島史婦娘は徳島酒者を個  
 て殺しけれバ麻島時利と是利太良の牧師なり  
 てま昔昔徳義を述も尾一と城戸山小楠某と一連下  
 となりあや其外徳縁音浪原根等が等して一くよ  
 くらけれバ親子も感懐なり天地感動して志君莫の集  
 令せり蓋してす徳へる英士皆下されバ某孝仕友の  
 ありとも何を以て是を憐ん麻島曰く君の心強て業を賞  
 するふあらず唯義を人をもつぬ今兄義ありて善い帰

して義をむ仕友の功これよ志くあせなりと懐才より  
 竹符を以て是を捧ぐる者ハ皆君の意厚なりと云け  
 せバ九十九歳で是を戴き早く立紙て太郎を招せんを  
 せられハ麻島限なく喜んで某ハ羽衣へ傘を更て行なれ  
 ハ兄ハ竹符を符てまづ宇部某の書院監物を為て支より  
 吾妻のいふまゝ某なりや兄心を改て孝義よ立小僧君  
 も亦あつらん九十九日無事なく徳守某の要む書い  
 ずやもされバ父を弑し妹を殺さんと云ふの情は  
 我中心ありて是を割するの教何善し悔するのこ  
 有んと云けれハ父も同く彼は誠ハ人畜なり早く打  
 捨て慈悲を汚すまゝと云らる麻島も其心を察して若く  
 黙しりるり守て九十九は向てやらるハ父某の物語して



已盛絨の強か水と忠病とをるをす。いかにあるの者も九  
 十九云おれ亦一勇士なり。中世の武勇を承さば必指懸ん  
 是思人のいぬものなりん。是より僅一里を隔つ。吾の於様  
 すべからず。甚よ体ひひめておれを試んと云り。れバ。麻島大  
 小殿でともよ。おれんとす。り。り。を。麻島。妻。と。あ。て。あ。人  
 爾。の。男。よ。して。小。曾。百。一。要。事。を。行。さ。ば。め。何。と。も。甘。ひ。び  
 くらず。と。云。よ。弄。時。尙。第。て。人。よ。ハ。仇。か。ん。も。事。な。ら。よ。  
 何。ぞ。親。よ。母。向。ん。あ。人。意。を。約。べ。と。云。り。れ。ハ。二。士。ハ。い。う。ぎ  
 五。也。り。り。暫。く。あ。り。て。小。曾。二。人。の。面。を。受。て。立。御。り。父。の  
 前。よ。奉。て。あ。人。ハ。何。も。一。部。と。同。父。答。て。九。十。九。先。進。を  
 悔。て。甲。と。さ。る。よ。ま。て。麻。島。が。主。人。是。利。殿。の。下。と。行。り。二  
 人。水。と。方。へ。行。て。彼。を。腹。を。割。り。め。て。同。く。是。利。殿。の。下。と。云。ん。と

す。母。も。あ。ら。を。改。て。た。小。義。を。結。ひ。る。よ。ま。と。云。り。れ。ハ。小  
 曾。う。ら。く。と。笑。て。九。十。九。先。進。病。を。て。忠。次。郎。が。武。勇。を。心  
 づく。折。く。人。の。信。と。な。り。り。我。何。ぞ。人。の。信。下。と。行。ら。ん。人  
 の。意。と。行。ら。ん。バ。我。も。な。ん。ん。あ。が。う。り。と。云。り。れ。ハ。小。曾。の。身。を  
 一。と。や。事。で。せ。り。れ。ハ。弄。時。尙。大。と。怒。て。己。親。よ。ま。て。雜。言  
 を。吐。け。り。め。り。暴。悪。の。者。誰。あ。り。て。何。と。云。ん。況。ん。主。人。や  
 折。じ。若。者。ん。や。い。う。や。り。罪。細。と。て。人。向。の。心。を。折。ら。る。老。後。の  
 折。檻。心。瘁。よ。ま。と。と。報。を。と。り。て。是。を。う。り。小。曾。引。弛。して  
 猿。を。つ。ら。と。老。親。父。者。よ。何。の。罪。首。て。り。鞭。打。ん。と。す。母。こ。う  
 吾。見。ず。は。沙。汰。も。なく。風。身。の。盜。を。り。て。壻。く。是。利。を。命。と  
 や。と。云。り。老。民。を。賢。思。の。主。人。の。と。致。事。類。程。の。安。樂。宴。げ。ん  
 山。後。万。一。異。刀。を。と。す。り。ら。ば。手。を。う。せ。ん。一。刀。は。切。殺。ん。と



突僞し白眼付られハ。父も平念の涙よりこれるが。おあ。お  
 人のぬをゆくと。嚙やぬらり。康あう喜ぶら。を刀にてさりげ  
 なく父を佛門へ傳ふられバ。父も幸すして。室を登られバ。  
 小僧いふ。達邪の情さ。人のして。今青康あが居らるを  
 幸なれ。妹を引きて。は。おを立去べ。華人もがられバ。お  
 令浪を盗せんと。庭へ下りて。康へ。おあ。お。水と忠義ハ  
 先般。おの着を康あ。付れ。其術好く。と。前近在を働  
 の。油。お。お。人。殺を。引。鼻。して。城。を。家。て。也。入。ら。り。小。僧  
 大。お。お。て。物。を。も。と。さ。る。國。お。の。り。水。と。切。つ。く。ら。を。お。お。を  
 弄。て。是。を。さ。け。お。切。掛。る。を。傳。言。て。替。お。合。け。と。入。て。統。首  
 批。て。槍。傷。して。刀。を。も。と。さ。ぬ。郷。と。て。槍。へ。強。く。つ。を。い。ら。り。水  
 下。知。して。材。物。を。取。ら。り。殺。十。人。を。擡。せ。て。切。戸。を。開。ら。り

周を退人とせし。西へ康あ。面。く。ら。り。て。一。二。文。字。は。切  
 立て。材。物。を。え。ぬ。り。九十九ハ。雜。人。を。遣。ら。し。進。擧。ら。り。水  
 上。康。あ。を。刀。で。是。て。殺。先。殺。討。つ。若。の。敵。な。ら。ん。と。お。こ  
 せ。こ。は。切。ら。る。を。悪。次。序。ゆ。ら。り。お。あ。と。打。合。て。替。お。我。い  
 ら。る。が。水。と。急。よ。と。急。け。て。猪。鼻。を。擡。く。刃。控。あ。れ。と。自。ら。刀  
 を。引。た。れ。ハ。康。あ。も。太。刀。を。提。立。わ。ら。り。若。若。河。を。傳。て。備  
 も。忍。び。ぬ。ゆ。ら。り。人。ぞ。や。敏。術。の。妙。お。の。あ。ら。ぬ。某。武。將。は。仕  
 内。小。楠。半。七。郎。と。さ。る。劍。術。の。名人。の。後。い。ふ。お。ひ。が。今。百。鬼  
 の。太。刀。の。り。騎。も。小。楠。は。相。違。な。り。姓。名。を。取。り。使。く。一。合。を  
 奪。う。ん。と。申。た。れ。ハ。康。あ。給。て。小。楠。ハ。我。と。義。を。守。す。よ。只。骨  
 なり。劍。術。も。お。一。双。なり。母。武。將。と。て。何。お。よ。在。ら。を。お。お。各  
 て。某。ハ。水。と。忠。義。と。ら。て。無。谷。院。の。持。孫。無。名。郎。方。は。何。居。せ



己小指氏暫く彼ら宅に在り時其術を學べりといふ。麻呂  
 大に殺て今宵某九十九とちよ汝が宅にありて。物後を  
 せむしと。初めは。面あり。油をれば。盜賊の様子とれども  
 去るべし。我ら。吾と。麻呂。惡次郎と。名を。今ハ小指氏  
 塚石。悪次郎と。名を。是利左郎の。臣と。なり。由も。今  
 夕。心を。改て。答。塚と。とも。に。左郎。は。仕。事。ならん。既。心  
 家の。嫡子。百。九十九。我言。は。後。て。義。を。結。り。と。後。り。れ。ば。  
 水。と。大。は。感。徳。し。幸。行。り。う。子。某。は。杜。三。業。を。廢。て。義。を。結。  
 て。大。業。は。後。ん。と。勇。士。の。本。何。か。ゆ。ゑ。の。何。る。か。と。ま。  
 此。道。と。り。て。喜。り。折。り。下。初。一。人。若。年。て。九。十。九。大。場。と  
 戦。て。危。と。す。り。も。麻。呂。水。と。心。結。て。逃。行。り。小。指。氏。を。見。  
 る。り。も。大。音。と。て。盜。賊。今。り。父。と。妹。と。叫。れ。ば。某。時。毎。

立出て。殺。て。汝。が。為。は。角。搦。め。ら。れ。と。初。め。れ。ば。兄。と  
 麻。呂。と。妹。を。盜。る。ゆ。え。吾。是。を。解。ぬ。れ。ば。初。の。如。く。綁。ら。れ  
 たり。おの。と。く。材。室。を。控。せ。り。小。指。氏。を。ま。り。由。り。果。い  
 内。向。を。解。け。れ。逃。掛。て。お。人。を。捕。へ。ん。と。云。父。甚。強。壯。也。と  
 て。急。ぎ。い。ま。し。め。を。解。ん。と。云。妹。と。あ。て。夫。と。兄。と。と。必。邪。の  
 術。あり。ん。今。お。し。力。合。さ。ば。極。子。あ。ら。れ。ん。其。と。あ。て。は。い  
 ま。し。め。を。解。ぬ。と。初。め。れ。ば。小。指。氏。亦。回。妹。お。人。を。解。け。て  
 を。逃。去。さ。し。あ。ん。房。子。初。の。今。なり。父。の。吾。と。ま。り。ハ。皆。解。ま。て。惡  
 人。と。ま。り。ハ。却。て。綁。を。解。け。たり。也。殊。や。ふ。と。云。れ。ば。某。時  
 妹。立。寄。て。汝。が。洞。を。殊。と。す。り。ふ。あ。ん。唯。綁。を。解。け。たり。と。是  
 を。急。ぎ。解。ち。り。れ。ば。よ。り。と。吾。初。り。よ。は。初。め。初。め。窮。命。あ。れ。と  
 父。を。殺。て。引。布。綁。と。て。妹。は。向。い。汝。甚。也。と。云。て。妻。と。甲。の。ら。ば



伴て走るべし。いふと云は切拵んと。父を控へくらめ付を妹を  
 扱持て小奮が肩へ切つけたり。そのとを扱振り。油印して  
 手を負さうり。おろし生てハまればぬと。妹の右刀をうらうりて。竟  
 刀をのぎとりて。いちを拂へらうりて。何てうらうりて。伏を  
 とがり。村を持ゆんと立出。か。思へハ父も。恨有り。一  
 太刀討んと。刀を扱。切付んとせし。悪を。悪次郎。近付て首  
 筋つゝて。扱出せば。起より。おことす。を。九十九。これをお倒  
 して。郷上。引き。其内。麻呂男の。縄を。と。妻女を。引起  
 して。おれ。ハ。事。は。後。ま。なり。呼。せ。ら。れ。て。眼。を。閉。ま。し。父。の。主。雅  
 を。見。て。大。に。恨。み。ま。り。れ。ハ。異。時。回。回。胞。を。悪。を。ま。す。り。空  
 なり。天下の。相。事。ハ。事。を。一。子。を。殺。して。教。人の。害。を。過。べ。と  
 刀。を。把。て。小。奮。が。首。う。ら。為。り。て。涙。を。流。し。え。ハ。三人。を。心。成。

殺て。とも。小。為。海。せり。因。ハ。水。上。忠。務。改。て。立。入。對。面。して。此  
 十九。と。ら。も。小。足。利。太。郎。の。下。下。と。ぬ。ま。を。お。り。れ。ハ。異。時  
 女。大。に。恨。て。吾。友。ハ。あ。り。て。娘。が。手。を。瘡。ま。す。ハ。女。人。身。  
 と。あ。り。立。越。て。ま。を。を。ね。せ。よ。麻。呂。ハ。相。別。ハ。下。り。て。帰。路。を。み  
 ら。ば。驚。で。娘。を。体。の。も。へ。べ。ハ。相。決。一。決。して。誓。言。を。別  
 と。立。出。たり。

足利太郎東國備後所討討勇事

足利太郎ハ。吾妻山ハ。居。住。り。て。激。く。恩。德。を。施。し。た。れ。ハ。  
 手。下。の。盜。賊。も。美。事。を。な。り。て。無。道。な。り。ハ。捕。め。を。し。や  
 却。て。道。下。り。を。為。控。して。危。を。救。ふ。よ。り。て。人。民。を。魔。の  
 ず。と。ま。し。と。行。り。或。時。長。尾。基。成。忍。今。因。縁。を。事。な。り。ハ。時  
 京。都。ハ。登。り。國。の。相。を。も。歴。説。あ。る。べ。し。ま。ら。東。國。を。巡。り。



何のて旅運を例らるべしと申されば、本所大よ表て城戸  
 掃廣を留ま居し。若尾小指、旁浪を百連て、原根本ハ、城戸  
 と云ふ山中、小留られし。竹次平治、衆邊を統ひし。城戸  
 て、其時既に父母の件を以て君の臣とされ、其時此の位  
 ハ、近里ハ、幸甚あり、東國因勝の位位ハ、是非希ふ所也と、歌  
 竹次ハ、其良悦、何のて、其後、此の六人、お立んとせし  
 所、百く九十九、水と忠義、竹次を以て尋来りなれば、本所  
 赤坂ガ、城を考し、若尾、命して竹次を合せ、其半て、國云  
 あり、君臣の物をたし、なれば、其人、感懐し、其へ退て、二共を  
 らしめ、諸士、對面して、満心、執事、は、城、勤、而、水、を、求、む、は  
 水、と、い、ふ、ゆ、り、の、中、の、者、義、堂、よ、入、べ、し、者、を、撰、り、て、替、り、方  
 と、申、す、べ、し、九、十、九、の、老、父、并、よ、も、負、ひ、ま、り、な、れ、ば、飯、定

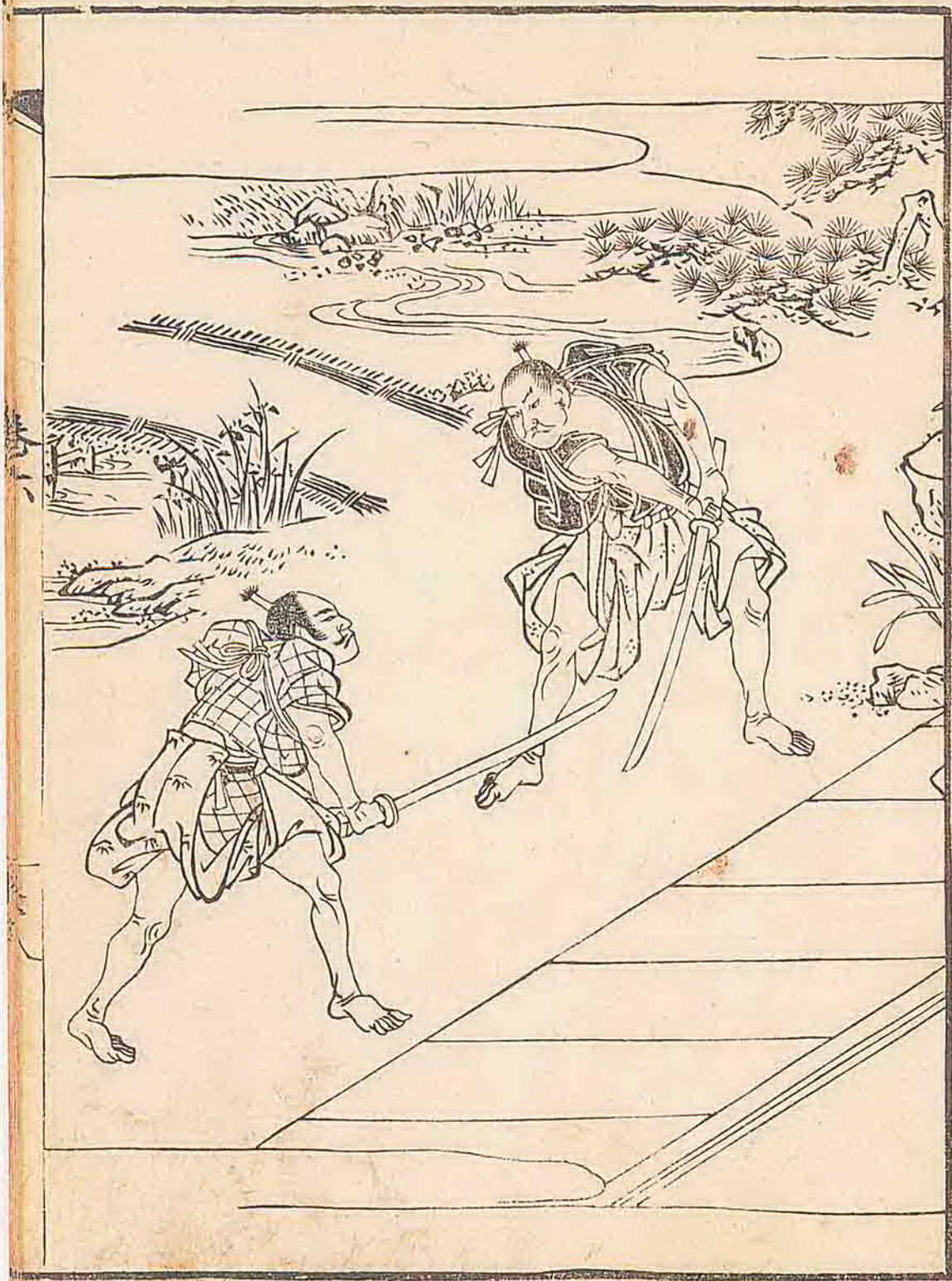
地、録、に、い、へ、し、と、念、じ、た、れ、ば、人、形、事、して、本、所、の、申、を  
 送、り、又、六、日、山、中、よ、立、て、其、風、を、知、覺、せ、城、味、戸、よ、あ、り、て、五  
 日、ま、り、去、程、よ、お、良、主、後、ま、り、下、野、り、り、と、後、下、總、を、見、ん、あ  
 べ、若、尾、城、邊、の、要、害、攻、め、の、利、害、を、從、志、し、り。水、五、風、俗、の、要  
 兵、を、備、じ、日、を、考、て、常、陸、國、よ、武、原、邊、上、神、宮、よ、ま、り、て、信  
 澤、を、た、し、旁、浪、が、下、縁、よ、し、り、て、旅、宿、を、さ、し、め、あ、二、日、是、を  
 留、ら、れ、り、り、に、長、尾、ヤ、リ、リ、ハ、此、地、武、勇、の、者、あ、り、若、く、ハ、勇  
 士、を、以、り、と、し、り、ん、と、宿、の、ま、り、武、勇、よ、撰、り、者、あ、り、也、と、尋  
 り、お、尋、り、ま、り、人、の、氣、風、勇、を、知、し、と、し、り、も、只、人、よ、撰、ん、と、城  
 邊、て、其、よ、武、を、磨、く、者、稀、也、内、田、主、水、と、云、り、邊、士、あ、り、り、  
 馬、を、能、く、て、義、よ、い、と、し、勇、士、ま、り、弟、を、派、野、若、尾、と、云、り、力、量  
 あ、り、て、劍、術、を、善、く、し、時、に、業、の、ま、り、者、若、尾、と、云、り、者、あ



と云。毛尾新て此地は麻濃郡に所とざる者を及々其の  
 其人今何國より来る。其王曰。悪く所ハ神の化者なり。人  
 の業は阿そす。彼荒人神と号する士と遂電せり。其後密に  
 下野國にて彼二人同様の英士と三人ありて軍者と事  
 て竟に打負今上君の持化太師と云る盗賊の臣下と成  
 るる。一及らりと強りければ。太師はめ可哀をこへ  
 てこれをきき。翌日強弱を尋て折る大勢。其を  
 刀討に旅宿のま。事聞して。方の人なるが。武勇を好  
 て君の業一覽なり。度の中の人伴ひりると云ふ。右膳大  
 悦て。誠心ある旅人なるを。苦くうす。是へ入るべしと云  
 に。之に従て位を礼して。毛尾旁浪次は太師小梅竹は泉  
 平と名して一礼を垂り。色は。右膳も其人物に。なると云ふ。て

心憐れ候を。言して。武勇は限り。吾も諸人の業。各々  
 あらば。を直り。助言有へしと云て。法王と云ふ。太刀討の  
 術を。勵とよ。誠は土地の奴。自然と他國の業と。異れば。為  
 明を。貴られれば。右膳も。各の業一覽。い。ち。た。と。申。れ  
 ハ。長尾竹は。泉平。命令。て。立。合。志。し。る。ふ。人。物。強。き。立。出  
 て。二人。して。七八人。と。太。刀。打。して。皆。務。治。され。る。も。少。も。傍  
 ら。氏。慎。務。り。右。膳。甚。業。て。自。ら。所。法。と。立。合。て。暫。く。戦。ひ  
 たり。右。竹。は。音。打。負。り。泉。平。立。合。て。これ。も。皆。討。て。打  
 負。り。られ。ば。小。梅。あ。り。て。誠。は。給。入。り。太。刀。討。たり。一  
 務。負。い。さん。と。木。刀。提。て。意。下。り。右。膳。向。て。立。寄。り。り  
 右。膳。起。身。す。く。く。る。め。く。り。て。太。刀。を。掲。る。ふ。と。何。ん。ん。ん  
 花。志。り。て。及。ど。く。君。の。術。神。は。某。り。某。が。敵。は。あ。ら。ば。と







云々小楮おきてある諸士七八人成振く。俄に我をおてきよ  
 こ申されば皆いそいで八方よりおたむる。幻電光火石にて  
 目に見難きを召る事あり。一閃はひき伏して。麻呂惠次郎  
 二度は地よ奉まゐる。天下ハ廣く地國よおる神人を生  
 くることをのく感伏せしめられ。右膳小楮より向て。敵を  
 代の業なり。夜も惠次郎と立合せて。其業の雄雄を一刃  
 さバ修りの力やあるべしとやける。時為明笑て。世人中總  
 玉布施して。要次郎と唯二人一時あり。我て互に感ひ  
 て。今ハ兄弟のまゝと。某始今日因縁の者と。一處の信と  
 て。侍友なりと。涙をふ。右膳大よ怒りて。げれ。凡人の業  
 あり。然らば一色氏なる人も。知音なるも。小楮を  
 一色即吾と。朋友なり。右膳回神武の諸士。一閃は侍友の

君い。うける人。多。吾浪田。是利の。始。今。民間。は。落て。弁。美。の  
 良將。より。我。より。子。是。は。侍。友。右。膳。回。上。州。妙。義。山。の。権。化。右  
 膳。よ。あ。す。や。長。尾。答。て。案。よ。さ。り。と。云。其。時。右。膳。礼。を。辱。く  
 して。某。兄。内。回。主。水。と。兄。弟。二。人。ま。じ。り。く。右。膳。の。陸。風。を。慕  
 と。云。とも。侍。友。は。あ。り。は。時。なり。事。を。の。く。は。對。面。せ。は。あ。ん。う。志  
 を。新。て。は。と。な。り。し。め。の。人。と。云。よ。長。尾。大。は。新。て。義。あ。る。人  
 ハ。無。術。と。云。とも。ま。君。これ。を。重。ん。じ。次。也。ま。兄。弟。の。如。ハ  
 一。騎。當。り。たり。某。お。とも。小。娘。は。堀。江。と。云。右。膳。快。然。と。云。  
 早。米。の。の。宅。へ。人。を。送。ら。せ。て。毎。日。多。れ。ば。内。回。主。水。より。お  
 へ。す。地。來。て。諸。英。は。對。面。し。長。尾。の。母。を。召。ひ。り。れ。ば。ま。娘  
 字。を。な。ま。さ。り。ふ。兄。弟。仰。希。て。何。下。地。の。軍。師。と。て。を。は。せ。り  
 う。不。存。と。て。礼。を。せ。は。し。と。為。り。輕。い。由。り。て。二。人。の。仕。官。を



首尾たゞしめぬ人として、小指寄浪泉徳竹流る姓名を  
 母と右所も山形八郎と名宗兎角ハ旅宿して来たりあり  
 し。おきよそも細い後世とて礼をなして二人立出たりを  
 只身送て同田熟く後新をなすも兎角の英拙あり以  
 怪むへんハ山形八郎とあらん。慈仁面よりまき勇気満ちよ  
 あらざる。申く位位の列よりあらず思ふよ。是右所殿と名之  
 かり。今日いりある目として。名君英士よ逢りると。只身  
 のめく。早速夜夜をぬて旅籠に立越して始て右所をねく  
 恩風流言心願して盡せりて。思臣の結をなす。只身俄  
 よ旅籠を片付て。是より五きよ加つて扈從せり。一あるありて  
 立出たりよ。旅宿のまじりをなしてきく送りたれば。右所  
 其志を深く黄嘆して自ら持て宗の殿をぬりて。右所

命して銀鍔を何れに分れば。其主源を流して大恩ふく感ふよ  
 ろめて送りける。何ぞ婦を食らんと銀鍔を更作して只扇を  
 以て焼くれば。為明却て是を感じ。流波野へ流るよ。手紙を  
 開よ。其後をて船を仕立て。船場よ放て眼をこらして立海  
 きり。吏より河海をいりて船よりよりたれば。道路廣原を  
 して。心よま山越何りて何へとも。主従の勇威よ悲きて。故て  
 敵對者もたう。中央を徑ると。此主従よきよを述べて。経路  
 を踏一二町を隔て。松樹回を歩行ありたりふ。二人の杖を  
 つて。右所のゆる道より力を捨て。左右よまきり。小指寄浪打  
 笑て。路外の塵見よまきり。大音とて命あらず。の忌人糸  
 早く道を穿て。と云りるふ。二人何ぞ笑て。吾々を困く  
 小及す。汝等太刀先よ通る人。と云れば。あ士大よ怒



て右刀引抜て切てくまじは太郎はより刀をよりも海軍志と  
 めて踏よりの足と一人走立の走り。小指ハ奴を切んも  
 のしり。捕よせんといふと滑り然て引弛して右刀お  
 組伏より。逸平ハ一人と戦ふと力々くるる。鉄棒のごとき  
 刀にて天窓を打ちくられ。身軀微塵に碎り。半七郎由者  
 を所多しつるして。己等何者なれ。いふふ大腕の業を  
 すると責問よ。いふ事の盜賊よて不意に起てをひやせば。旅  
 人ぬい。怒て逃るるよ。いひて功をせり。鬼のめさ。い何ぞ  
 不。あ。え。と。軽ハ命を馳けのえと。泣きられ。と更難んも  
 不便なりと。側の大木よ。た。う。は。郷付て。怪ある。旅人よ  
 ぬ。い。と。お。笑。て。あ。人。走。立。よ。太。郎。の。行。来。あ。れ。す。大。木。を  
 て。色。を。と。て。毛。を。よ。ぶ。よ。長。尾。竹。沢。泉。邊。同。因。滋。壯。あ。れ。を

て。右。集。り。た。の。様。子。を。う。て。是。あ。士。の。保。り。ふ。あ。は。我。君  
 夢。も。あ。な。り。よ。う。や。何。國。よ。在。た。も。神。不。測。の。徳。あ。れ  
 ば。あ。や。う。き。う。の。笑。ま。り。と。い。ふ。い。ふ。も。長。尾。の。め。む。な。ら  
 ず。後。横。よ。尋。求。け。る。は。時。太。郎。の。往。を。踏。ま。よ。て。十。町。は。り  
 び。て。頻。々。睡。眠。を。催。し。て。例。を。え。れ。ば。大。木。の。松。が。根。よ。一。の  
 平。石。を。大。木。に。依。り。て。石。よ。横。に。り。て。熟。寝。し。り。斯。か。あ。よ  
 一人の横を。大木。尺計の勇士。走り。て。太。良。が。身。の。せ。り。尋  
 常。に。あ。ら。ざ。れ。ば。お。殺。し。て。刺。捕。ん。と。言。あ。て。刀。を。ぬ。く。は。忽。白  
 光。眼。を。透。て。身。を。動。か。す。の。け。ば。ま。さ。帯。の。ゆ。旅。お。大。木。駈  
 ける。側。の。石。佛。五。尺。計。有。る。を。忽。と。て。指。上。を。即。が  
 一。の。踏。上。て。投。付。よ。枕。を。ふ。移。よ。と。う。て。其。身。よ。雲。の。一  
 粒。あ。ま。は。く。撞。て。切。て。ま。り。半。行。く。ら。も。組。を。あ。て。い。ふ。こと



ありうす。と云ふ事あり。七上進々付て。内田も水一番は組  
 付て引信さんとする。不効。右様強きて。たぬは擁て引信  
 一足事まで組。組をうけおれば。は物音。太尉も起上り  
 何者ぞと怒りければ。彼士を低て某く因となりて。名を  
 名をいへ。何うせん早く首を刎らるべし。然も君ハ元人  
 わす。尊姓をきて。冥途の去るやせんとい。さうも控せられ  
 いた良自。起く繩を解。世勇。力量。何うて一方の目よ。立  
 べ。者なり。君ハ足利太尉と云者なり。汝今より我。後て  
 大業を助。もあれ。彼士をうて。平伏。情で恩を謝。某  
 門倉牛。右衛門。浪士なり。扱波より。麻島。治。る。る。君  
 は。敬。對。して。不。思。儀。を。力。で。却。て。下。下。と。な。ん。こ。と。生。く。の。大  
 恩。あり。身。命。を。控。て。給。仕。せん。と。長。尾。初。結。す。は。對。面。て

是より。た。後。ひ。こ。り。為。明。太。尉。を。戒。て。君。の。供。福。危。地。よ。立  
 とも。危。こ。と。なり。と。云。とも。臣。等。誓。の。友。心。現。さ。ご。う。な。く。必  
 しも。心。自。己。の。勇。を。用。ひ。ま。ふ。り。あ。る。べ。う。と。す。と。引。信。の。間  
 へ。も。た。れ。ば。太。良。大。は。得。心。あり。て。生。生。の。凍。凍。は。苦。業。あり  
 こと。これ。より。思。及。の。間。も。福。歩。を。な。さ。た。唯。仁。慈。威。威。を。以。て  
 弟。人。は。隠。り。ま。う。り。主。後。九。人。扱。波。山。へ。ま。あ。ら。ん。當。面。を  
 控。こ。して。扱。波。は。介。れ。ば。勇。浪。先。を。走。て。百。九。九。が。あ。り  
 きて。密。に。傳。へ。られ。ば。父子。小。確。して。給。さ。ほ。び。水。と。一。海。に  
 て。三人。適。し。迎。え。出。られ。ば。太。尉。も。歎。息。あり。て。そ。お。入。て  
 弄。肉。業。を。な。り。起。了。恩。言。あり。て。麻。島。が。妻。を。お。る。へ。弄。肉。射  
 涙。を。流。て。娘。が。底。平。急。の。り。中。よ。て。猪。を。漬。く。て。麻  
 島。が。妻。を。す。め。長。尾。の。も。よ。さ。不。覺。り。なる。水。と。が



手下の盗らる義をとりて。太良は目見せんを斬り更。  
 長尾下知して五人三人を斬りて。一月は徳よを  
 つさるる。なまて國々の浪士。長野を新株。取手。湯島。田六  
 郎。浪合。久。平。と太郎の威風を慕て。九十九忠節よりつて  
 仕友を招ひりつふ。皆一時の勇士なれば。太郎も悦て先を  
 につり。君臣の約をたたりたり。太郎滞留の間。百くが家  
 士。秋の来。生。多。れ。れ。自。ら。沙。汰。あ。り。て。領。主。賢。主。也。下。野。中  
 つ。と。中。て。旅。人。と。号。し。百。く。が。宅。は。滞。留。して。武。士。を。多。る。集  
 る。ハ。必。定。折。々の。役。將。故。平。集。て。一。揆。を。假。し。そ。ん。ご。り。急  
 よ。人。數。を。善。向。て。強。敵。に。追。拂。へ。罪。化。り。よ。多。く。討。捕。り。て。秋  
 彦。某。よ。二。百。人。を。差。添。て。打。立。り。九。十。九。を。多。く。討。付。て。太。郎  
 よ。許。へ。ら。れ。ば。太。郎。大。に。怒。り。て。長。尾。よ。計。を。と。り。よ。高。烟。まで

何方の人数なりとも。強敵さんハ易かれとも。味方ハ素拙よ  
 して。歩。立。り。り。款。ハ。ま。る。上。花。物。あり。そ。ん。ご。り。勇。士。を。失。い。ん。ご  
 論。す。一。つ。の。謀。あり。と。九。十。九。父。多。く。強。り。て。あ。ん。ハ。あ。よ。沙  
 一。太。良。ハ。長。尾。に。め。八。人。の。勇。士。と。新。株。の。四。士。水。と。を。合。て  
 主。後。十。四。人。懸。て。立。出。水。上。が。宅。へ。馳。入。り。討。手。を。待。て。打。立。り。  
 秋。彦。が。人。數。百。く。が。家。を。取。り。て。一。回。よ。也。入。ま。バ。親。子。懸。勤  
 よ。出。立。て。め。何。なる。罪。何。つて。討。手。を。多。り。以。や。と。殺。れ。ば。  
 秋。彦。同。く。家。内。を。改。て。凡。る。よ。煙。さ。こ。と。半。息。も。な。け。れ。ば。  
 親。子。を。焼。で。此。家。よ。多。く。旅。外。の。武。士。を。集。め。たり。と。許。有  
 て。某。時。議。の。為。事。し。り。何。方。へ。り。逃。失。し。と。殺。れ。ば。其。時  
 命。終。て。な。ら。ざ。る。は。為。勇。て。そ。ん。ご。り。虚。ろ。の。が。り。某。が。娘。一。人  
 の。浪。士。と。婚。姻。を。な。り。婿。ハ。羽。州。へ。赴。き。こ。り。見。る。よ。め。て。某



が超音縁於聲を視族近來み三人有り山宿せしこと宵の  
 明日と八九人の縁者滞面してと朝莫別へ出まらひ此外  
 なくとありげなく述われバ秋庭も詮方なく父子は後來  
 を深く戒て人数を引揚るる小寺人者者あつて是より  
 一里ばかり東より水上忠義と云ふ盜賊あり彼處と朝寤  
 竟の武士十餘人道を急て入りと漸々々々秋庭園に彼  
 水と盜賊の強中なりとくより追拂んと思われたるのよ  
 終て控へたりといふや此序よ彼が屯を攻破して悉く追控ん  
 と人数を追て急よ水とが急を押せりて一方を明をきて  
 時の色を揚られバ家周大は強靱して水と人数は盜賊を  
 撥て裏の方より為りて惣物す八逃せり追討して我も  
 くと裏の方へ馳せりよ忽正面の門を閉て小楮半七郎

其先は進之勢浪逸平門倉半左衛門大長刀を撥て中よた  
 即ち刀を抜持て竹沢平治泉崎主税内田主水滋野志籍  
 兵十兵衛長野長泉園の良浪合久八の物くを提て是尾  
 盜跡を押へ移くと押せり小楮大の眼を足圍て秋庭が  
 袖を去切押されバ押控て主税十三人會衆もなく馳せり  
 は其威風猛火の物を焼がごとく洪水の漲流るが如し  
 勢よりと云て各處の遠よびて是を足る風揺動り須  
 更りて乃方を失ひられバ秋庭以外の外は獲を冷し此十  
 数人何ぞ人間なるん吾はこれを知るのこりして  
 向のむがしいう極も奇異の曲者をもとまらり人数をま  
 とめて水とが急よ火を放て是を焼焚し意よゆ凍がしふ  
 たり太良ハ為明が計りて危地を免れ是よりゆりせて走らる



水先へ回りて是を速へ道ちるべしと告げ入出下総を  
 越て武州より後河川をたつりて親直と系直有行四を  
 網てまより上忍へと急ぎたる。此時河田伊豆志賀義理を  
 悪例落去のほあ人相忍より取りて小田原より仕んと打せども  
 知事ありれば一先下総より行て手帳をたし長尾を傍て吳  
 見を穿んと是も後河をまよりしが太郎大坊を引具して立寄  
 を河田後安を見て志賀より向ておの一むきの諸士の内跡  
 よりまより上忍より一むき長尾監物より我直より後河相見之  
 も面目なりしと驚く是を刃送りしが横手を拍ておの内より  
 古今の名將ありと云ふ者其まお河田陰くより白虎一人の  
 士の跡よりさなりたり是王公神人の徴なり果して長尾  
 撫て志賀より仕へるうと是をつまごて是を叩バ志賀も大

一と驚て忍見の御ありておれをみる某おら及ころよあら  
 をと堂より登りて誂礼し出家より引て先別十数人の士  
 におのりるのうと云ふ出家供養の姓ありと出され  
 而士是をみるは是利太郎源義連と記しまより臣長尾監  
 物小楯半七郎より十五人の姓あり。泣きりてあ人嘆息  
 しこれぞ彼一色時範が我を方便て死を定めて悪例  
 を遁去して臣下と打りし。姓義山の檢化太郎と云ある  
 へ。吾曹不明よりして一色より敵軍軍云へらうず。嗚呼と忍  
 成得たるかかと長嘆して是よりあ人太良より仕人の志一決  
 して一先下総よりたつら長尾味戸一色より固て官給をむら  
 かんし河川をたつりてはりぬ。それより太郎八熊谷の郷塚方  
 に一宿ありて上忍へ入。吾妻山の氏より帰ありける。太良



暫く休息を以て畿内周遊ありて三首を毛尾に渡りしは  
 一為明彦にて、一度由路野原に於ての危難ハ勇士多く  
 従ふよ人の眼目よをれり、さて上方ハ人甚ことなれば  
 大勢必定害ありべし、只某と城戸持廣與人誘信して中納  
 をあつめしつゝ、危しき事なれば、太尉忠となり、皆えは腹  
 かり、重て一色時範を命じて、磐塚となし、彼地をなきて造  
 立あさむべし、亦小指ハ某が書を以て、指義士を結ぶん  
 とやかりふ、太尉一く承知あつて、原十右衛門を頼み、ハ  
 又此の弟を托し、竹沢泉崎、常浪渡舟の便を司りて、  
 會集の勇士、爰ハ有ハ、彼徳彦の人数を以て、さりととも、何の  
 危しき事、何らん、と、悉く旅の用意をなす、ありたり、



